

2012.3.22 第6回電磁界フォーラム（大阪）
～電磁界とプレコーショナリ原則(Precautionary Principle)～ の記録

1. 日時：平成24年3月22日（木） 13：00～16：30
2. 場所：大阪国際交流センター 会議室C・D
（住所：大阪府大阪市天王寺区上本町8-2-6）
3. プログラム：

13:00－13:05	開会挨拶・事務連絡	電磁界情報センター 事務局
13:05－13:20	フォーラム開催の背景	電磁界情報センター所長 大久保 千代次
13:20－14:00	電磁界とプレコーショナリ原則	(株)野村総合研究所 長田 徹 氏
14:00－14:10	休憩	
14:10－14:40	米国におけるプレコーショナリ政策の事例	電磁界情報センター 倉成 祐幸
14:40－15:10	欧州におけるプレコーショナリ政策の事例	(株)野村総合研究所 長田 徹 氏
15:10－15:30	日本におけるプレコーショナリ政策の事例	電磁界情報センター 小路 泰弘
15:30－15:45	休憩	
15:45－16:25	質疑応答	司会 電磁界情報センター所長 大久保 千代次
16:25－16:30	閉会挨拶	電磁界情報センター 事務局
16:30	閉 会	
4. 講演の内容：（発表スライド参照）
 - (1) フォーラム開催の背景
／電磁界情報センター所長 大久保 千代次
 - (2) 電磁界とプレコーショナリアプローチ
／(株)野村総合研究所 長田 徹 氏
 - (3) 米国におけるプレコーショナリ政策の事例
／電磁界情報センター 倉成 祐幸
 - (4) 欧州におけるプレコーショナリ政策の例
／(株)野村総合研究所 長田 徹 氏
 - (5) 日本におけるプレコーショナリ政策の事例
／電磁界情報センター 小路 泰弘



写真：講演の様子

5. 質疑応答

(1) 電磁界とプレコーショナリアプローチ

(会場) なし

(2) 電磁界とプレコーショナリアプローチ

(会場 1) 昔から疑問に思っているのですが、なぜ EU だとか、ずっとグレーに残っているところをつぶさずいるのか。日本も磁界タスクワーキンググループができてガイドラインを導入した、そして予算は打ち切り。いわゆるグレーはどうなの？ 限りなく白いの？ 限りなくブラックなの？ そういうことのアプローチをとらない。EU も低周波についてはほとんど同じ。アメリカにしてみれば、RAPID もそうですね。これについて、長田さんは今までずっと関わってこられて、ご自身の見解と、こんなのでもいいのかいな、という吐露をお聞かせいただけたらと思うのですが。

(長田 徹) 確かに、そのような部分もあると思います。アメリカに関していえば、RAPID プログラムが終了した後、連邦の研究予算は、特に低周波電磁界に焦点をあてた研究プログラムはすべてカットされて、連邦政府として研究を管理している担当者自体がいないような状況です。欧州委員会のほうは、一応、低周波に関しましても研究プロジェクトを立ち上げてはいるので、必ずしも研究をやっていないということではないと思います。ただ、どこの規制機関もやはりプレコーションということで「コミュニケー

ションと研究は大事ですね」と提言するのです。それはドイツも同じで、この2つはドイツ政府もWHOが言っている中で大事だと言っていると思いますが、予算的な措置については、高周波はあるが低周波はほとんどないような状況になっています。ということで、見解と実際の中身とが、なかなか整合していない部分があると思います。

一方で、どの研究をやれば結論が出そうかという糸口が見えにくく、疫学をこれ以上やってもわからないという話もあります。細胞レベルで裏付けするような研究は、欧州は最近やっていますが、決定的な何かが出るのかどうかはわからないという中で、重点的に研究を絞りにくいところがあるのかな、というふうなイメージは持っています。すみません、お答えになっていないかもしれません。

(3) 米国におけるプレコーショナリ政策の事例

(会場) なし

(4) 欧州におけるプレコーショナリ政策の例

(会場) なし

(5) 日本におけるプレコーショナリ政策の事例

(会場1) すごく素朴な質問なのですが、日本の送電線の基準がすごく厳しいということはよくわかりました。しかし、他国もいろんなプレコーショナリ政策をとられていると思うのですが、なぜ送電線については、日本だけこんなに基準が厳しくなっているのでしょうか。

(小路 泰弘) 今回議論しているのは磁界の話ですが、日本の規制は、先ほど欧米の紹介であったものと比べても、数値は厳しく設定されていません。先ほど説明した内容は、日本は諸外国と比べて電界の規制がもともと厳しかったので、それを反映した設計により結果的に磁界も十分低くなったということです。

(6) 全体の質疑応答

【司 会】大久保 千代次
【回 答 者】長田 徹、倉成 祐幸、小路 泰弘
【質 疑 応 答 内 容】

(司会) 皆様のほうからご発言等をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。先ほどのご発表での質問がちょっと足りなかったということが

ございましたら、追加でも結構ですので、どうぞ積極的にご質問いただければと思います。

（会場 1）聞き落としたかもしれませんが、「新たな研究の実施に向けて提言検討中」とありましたが、具体的にどういう状況なのか、いつごろとありますか。

（司会）電磁界情報センターのホームページからも記録が閲覧できますが、第 5 回電磁界フォーラムで、阪大の原先生、この先生は小児白血病の臨床医で、小児がんに関してがん登録を実施するように一生懸命頑張っている先生です。その方に小児白血病の発症メカニズムとか、どんな種類があるかなどを議論させていただきました。それから、疫学に関しては、東京女子医科大学の山口先生に参加していただいて、今後、もしやるとすればどんな疫学研究をやるべきか、ということ。そして、もう一人は電力中央研究所の中園先生という方で、個人的にはこの先生は非常におもしろいアプローチをしていると考えております。もともと小児白血病になる動物モデルはありませんので、世界各国で躍起になってそういうモデル動物の開発をやっているが、なかなか成功しない。この中園先生のグループはヒト化マウスというのをやっています。つまり、幹細胞を使ってマウスにヒトの血液を埋め込むということで、血液だけはヒトのようなモデルを今つくりつつあります。それにより、人と同じ遺伝子を持った動物による病態モデルの研究になり、何らかの形で磁界のばく露影響を受けるのではないかと、ということを発表していただきました。もう一人は、フォーラムには参加していただいておりませんが、京都大学の宮越先生は細胞研究で世界的な第一人者です。臨床と疫学と動物と細胞、それぞれの研究領域のエキスパートが今後の研究はどうあるべきか、ということを今取りまとめております。できればこの 4 人の方だけではなく、各関連する研究者、日本におられる各研究者にさらなる加筆訂正を加えていただいて、電磁界情報センターから「研究提言」という形で発信したいと思っております。ただし、政府がそれを受けて何かやってくれるかという保証は全くありません。研究提言をしなければ何も動かないなという、ある意味、危機感があるものですから、そのようなことを提言したいということです。

（司会）他に、よろしいですか。それでは時間は少し早いですが、これで終了とさせていただきます。（拍手）

－以上－